

プレスリリース

## 駐日スペイン大使館 展覧会

# SDGs の先駆者 アントニ・ガウディ 形と色

## -150 年前からのヒント-

2022年3月10日(木)~3月31日(木)

東京工芸大学色の国際科学芸術研究センターと駐日スペイン大使館は、東京工芸大学 100 周年事業の一環として 2021 年 3 月 10 日(木)から 3 月 31 日(木)まで、「SDGs の先駆者 アントニ・ガウディ 形と色 -150 年前からのヒント-」展を開催します。

2015 年、国連で採択された「SDGs」(持続可能な開発目標)は、現在さまざまな企業、団体が取り組み、ひとりひとりの生活者にも身近な課題として語られるようになりました。スペインでも 20 年以上前から持続可能なエネルギー・モデルを目指し、再生可能エネルギーへの転換に取り組んできましたが、さかのぼること 100 年前に、世に先駆けて SDGs の思想をカタチにしたのが、世界中に知られるスペインが生んだ天才建築家のアントニ・ガウディです。

本展覧会では、これまで様々な角度から語られてきたガウディとその作品の模型や図面などを新たな切り口から展示して SDGs の先駆者として紹介し、彼の遺したレガシーや建築作品を SDGs の視点からスポットをあて、その業績を新たな観点で広く知っていただきたく、新しい試みによるガウディ展となります。

### 【開催概要】

- タイトル : SDGs の先駆者 アントニ・ガウディ 形と色 -150 年前からのヒント-
- 会期 : 2022 年 3 月 10 日から 3 月 31 日まで
- 時間 : 10:00-17:00(金曜日は 16:00 まで) 予約不要
- 料金 : 無料
- 場所 : 106-0032 東京都港区六本木 1-3-29 駐日スペイン大使館
- 主催(共催) : 東京工芸大学色の国際科学芸術研究センター、駐日スペイン大使館
- 企画 : 山村健(東京工芸大学准教授)
- 特別協力 : 株式会社新東通信、共同ピーアール株式会社
- 出展協力 : 西武文理大学((学)文理佐藤学園)、早稲田大学建築学教室本庄アーカイブズ、YKK AP 株式会社、一般社団法人ガウディ学研究所、東京工芸大学山村健研究室、久原泰雄研究室
- 協賛 : コセンティーノ・ジャパン株式会社
- 後援 : カサ・バトリヨ、日本・カタルーニャ友好親善協会、日本建築学会関東支部
- 空間デザイン : YSLA Architects (ナタリア・サンツ・ラヴィーニャ+山村健)
- グラフィックデザイン : 松本健一(株式会社 motomo)
- 会場施工 : 株式会社 GARDE
- Facebook : @embespanajapon
- twitter : @EmbEspJapon
- お問い合わせ : 03-3505-8731 (スペイン大使館代表)

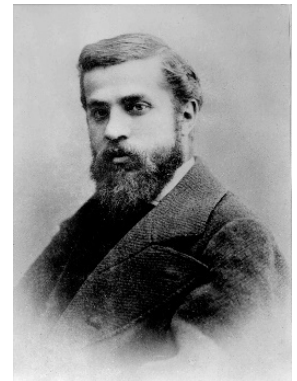
## 【駐日スペイン大使館のホルヘ・トレド大使メッセージ】

駐日スペイン大使として、2022年3月9日から31日までスペイン大使館において開催される「SDGsの先駆者 アントニ・ガウディ 形と色 -150年前からのヒント-」展に際し、ご挨拶できることを嬉しく思います。間違いなく、アントニ・ガウディは歴史上偉大なスペイン人建築家の一人であり、その作品のすばらしさは世界が認めるところであります。比類なき才能を示し、世界にスペイン建築を広めることに貢献しました。アントニ・ガウディはまた、建築におけるサステナビリティといった面で本人が生きた時代より遥かに進んでおり先駆的でした。使用した建築素材の多様性と工夫、建物における生物気候設計や構造の最適化は、ガウディの作品に偏在する要素であり、建築の持続可能性という観点から当時すでに時代を先取りしていたのです。持続可能な開発目標を達成するために、日々私たちが取り組んでいるこの時代に、非常に相応しい展覧会を開催できると感じています。皆様に、この展覧会においてアントニ・ガウディの作品が放つ魅力をお楽しみいただけることと確信しております。



## 【アントニ・ガウディ・イ・クルネット(1852-1926)】

スペイン、バルセロナで活躍した建築家。初期の作品にカサ・ビセンス、中期の作品にグエル邸、晩年にカサ・バトリョ、カサ・ミラ、グエル公園や、そして現在も建設が続いているサグラダ・ファミリア聖堂の設計者として知られております。ガウディの建築は、有機的な造形と豊かな色彩が特徴であり、構造的な合理性などは現代でも多くの建築家に影響を与えております。



## 【ガウディが考えた SDGs とは】

近代革命以降、建築や都市は急激な発展をとげてきました。利便性や快適性の向上を迫り、大量生産、大量消費を繰り返すことでそれを成し遂げてきました。しかし、それは地球の限られた天然資源をエネルギーとし、環境負荷を省みずに進めることで達成された成果であり、現代はその反動として、未曾有の環境問題が我々の目の前に立ちはだかつております。建築は産業のなかでも特にエネルギー消費量が大きいです。グリーン・エネルギーの利用やカーボン・ゼロに代表される通り、建築の工夫は、大きな一歩となります。

## 【企画展の見どころと各章のご紹介】

近代勃興期に活躍したスペインの建築家ガウディは、人と自然が共生できる建築や都市空間をデザインしてきました。目を引くのは奇抜な造形や、まぶしい色彩だが、それらの形と色の背景には、鋭い自然への眼差しから得たガウディなりのヒントが表現されたものであります。現代の環境という言葉は、ガウディにとっての自然と同じ言葉であり、我々は環境への眼差しを、ガウディの自然への眼差しから学ぶことができます。



## 【会期中イベントのご紹介】

■ 3月17日(木) 13:00-15:00 ※3月17日は「みんなで考えるSDGsの日」  
「トレンカディス・ワークショップ」

ガウディが用いたトレンカディス(陶片タイル)を参考に、色彩タイルや石を割って、自分のコースターを作るワークショップです。限定15名。(要事前予約)

■ 3月17日(木) 18:00-20:00 ※3月17日は「みんなで考えるSDGsの日」  
講演会「SDGsとガウディの形と色」

山村健(東京工芸大学准教授)+コセンティーノ・ジャパン+カサ・バトリョ  
ガウディの建築の特徴である色と形をSDGsの切り口から紹介する講演会です。  
大使館B1講演室とオンラインの併用。講演室は50名限定。(要事前予約)  
申し込み: <https://bit.ly/Gaudiip>

■ 3月31日(木) 14:00-15:00  
ダンス・インスタレーション「サステイナブル・パッション」

中弥智博/植田穂乃香(東京シティ・バレエ団)/殿崎亜美(コーディネーター)  
ガウディの建築の特徴である色と形をSDGsの切り口から紹介する講演会です。  
限定40名。(要事前予約)

## 第1章 「水のデザイン」 —



水を再利用するデザイン。

グエル公園は、バルセロナ郊外にある田園都市構想である。

バルセロナは万年水不足に悩ませられ、

新たにつくる田園都市のために、ガウディは雨水を利用した水インフラをデザインしている。

我々には、雨水の利用がどこまで出来ているだろうか。すくなくとも、建物の屋上の活用として一つヒントであることは間違いが無い。



### 広報画像①

#### 「グエル公園の階段のトカゲ」 Dragon del Park Güell

グエル公園のメインとなるトカゲ。水の守り神。リアルなトカゲではなく、ガウディは水の表現だけでなく、多彩な色彩を施すことによって、生命を与えている。

## 第2章 「風のデザイン」 —



風を最大限活用したデザイン。

20世紀初頭、近代化が加速したバルセロナには、多くの集合住宅が建設された。ガウディが手掛けたカサ・ミラやカサ・バトリヨは水インフラをデザインしている。暖房やエレベータなど先端機器が設置される一方で、自然の通風を最大限に活用した換気システムを設計した。電気に頼らず、住み手が自ら換気量を調整するための窓や建具。さらに、煙突効果を利用して屋根裏部屋の洗濯室に風を送ることで、あまなく空気の利用を今一度考えてみる必要があるのではないか。



©YKK AP Inc.

### 広報画像②

カサ・バトリヨの窓(40%縮小再現)

Ventana de Casa Batlló (recreación en miniatura, escala 40%)

住まい手が自由に調整できる換気窓。  
可動式パネルがその仕組みを表している。

制作協力: YKK AP、カサ・バトリヨ、東京工芸大学山村健研究室、早稲田大学石田航星研究室、前田建設工業 ICI 総合センター、PRODUCT DESIGN CENTER

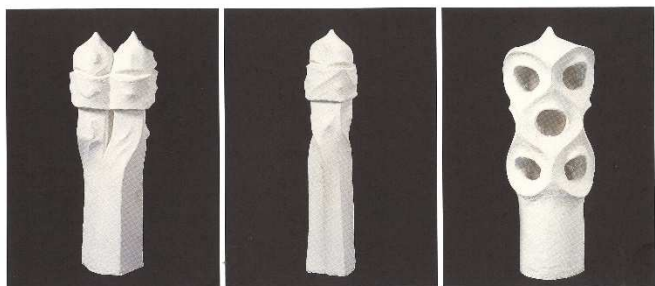
YKK AP 企画・主催「未来をひらく窓-Gaudí Meets 3D Printing」(2021年10月15日~11月3日、東京ミッドタウン)のために制作



### 広報画像③

「グエル別邸の換気塔」  
Chiminea de Finca Güell

換気のため煙突にガウディは様々な色と形と与えている。多彩色もあれば、モノトーンもあり、幾何学もあれば具象的な造形もある。



### 広報画像④

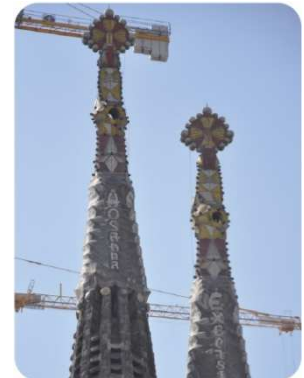
「カサ・ミラの屋上の煙突」  
Chiminea de La Pedrera

## 第3章 「大地のデザイン」 —



大地のデザイン。

ガウディの代表作であるサグラダ・ファミリアは山が聳えるようなデザインである。ガウディはゴシック様式から(当時の)近代建築を研究し、自然の山々や樹木からヒントをえて、構造的に無駄のない形状を探索した。二重螺旋や線織面は、合理的な形態を求めるために用いられた幾何学だ。そのほかにも様々な幾何学を用いることで、光、音、風、そして重力にとって無駄のない形をデザインしている。これからのデザインを考えるヒントがガウディの大地からヒントを得た視座に潜んでいるのではないか。



### 広報画像⑤

サグラダ・ファミリア聖堂の鐘楼模型  
「Pinnacle del templo de la  
Sagrada Familia

ガウディはまず形を決めて、次に色を決めた。  
そのプロセスをみせる展示。

## 【色彩がサスティナブルデザインに生命を与える】

「ギリシア人は、神殿にペンテリコン産の砂糖の結晶のように透明で稀少な美しさを持つ大理石を使用した。彼らは疑うことなく、その大理石に着色した。なぜならば、色彩は生命であるからである。我々は、自分たちの作品に生命を与えるためにこのことを軽んじてはならない」

Martinell i Brunet, Cèsar, Conversaciones con Gaudí, Ediciones Punto Fijo, Barcelona, 1969, p.21

これまでみてきたサスティナブルデザインと色は密接に関係している。

- ・目に見えることができない地下水は色鮮やかなドラゴンによって地上に出てくる。
- ・肌でしか感じることができない室内の心地よい風が、多彩色に彩られた煙突から空高く抜けていく。
- ・厳格な幾何学も、着色されることでその形が生き生きとする。

ガウディの建築における色彩は、デザインを可視化する重要な要素なのだ。

### 【報道に関するお問い合わせは】

◆「SDGsの先駆者 アントニ・ガウディ 形と色 -150年前からのヒント-」

広報事務局(共同PR内) 担当:三井、飯泉

E-mail: [sdgs.gaudi-pr@kyodo-pr.co.jp](mailto:sdgs.gaudi-pr@kyodo-pr.co.jp) / TEL: 03-6264-2382 / FAX: 0120-653-545

〒104-0045 東京都中央区築地1-13-1 銀座松竹スクエアビル10階